

## 林試の森公園における樹木を活用した森林環境教育の可能性

杉浦克明<sup>1</sup>・清水里彩<sup>1</sup>

1 日本大学生物資源科学部

**要旨**：都市部の子どもにとって、公園は貴重な森林環境教育の場である。東京都には林業試験場の跡地を公園にした「林試の森公園」があり、多様な樹種がある。そこで、本研究の目的は、林試の森公園で配布されている樹木に関する資料や現地の散策コースから、その公園の樹木を活かした教育の実態と可能性を明らかにすることである。方法は、公園で配布されている資料やイベントに関する分析と現地調査である。その結果、林試の森公園では樹木を学べるイベントが2ヶ月に1～2回開催されていたが、その内容は大人向けであった。また、実際に散策コースを回ると樹木の名札や解説板がない樹木がみられた。多くの人を対象とするならば、イベントや資料の改善、公園の整備などが求められる。林試の森公園には珍しい樹木もあり、教育の場としての可能性は高い。

**キーワード**：公園，児童，樹木，森林環境教育，林業試験場

### Possibility of forest environment education at the Rinshi-no-mori park in Tokyo, Japan

Katsuaki SUGIURA<sup>1</sup> and Risa SHIMIZU<sup>1</sup>

College of Bioresource Sciences, Nihon University, 1866 Kameino, Fujisawa, Kanagawa 252-0880, Japan 1

**Abstract**: The Rinshi-no-mori park is a valuable forest environment education site for urban children. This park, formerly belonging to the forestry research institute, is located in Tokyo and has a variety of tree species. This study aimed to clarify the actual conditions at the park and assess the possibility of using the site for education purposes by analyzing documents distributed and the walking course in the park. A field survey of the materials distributed and events organized at the park was conducted. We found that, once or twice two months, an event was conducted at the park to familiarize people regarding the tree species distributed at the park, but the content was suitable for adults only. In addition, some of the trees around the walking course did not have name tags and commentary boards. We feel further efforts are needed to improve the events organized, documentation, and park facilities. As there are rare trees at the Rinshi-no-mori park, the possibility of it being considered as an educational place is high.

**Keywords**: park, children, tree, forest environmental education, forestry research institute

#### I はじめに

森林環境教育への関心が高まる中、様々な年代を対象にその教育の推進が求められている(3)。本来であれば、森林で森林環境教育を実施できれば理想であるが、都市部の子どもにとって、日常生活の中で森林に触れる機会は少ない。その様な中、小学校児童が長時間滞在する小学校の多くには樹木があるが、小学校ごとに樹種や樹種数が異なっており(4)、児童が樹木に触れあえる環境に差が生じている。

樹種名の認知度は、樹木に対する興味度や関心度を測定する一つの指標(9)である。この樹種名の認知度に関連する既往研究には、小学校教科書には数多くの樹種が掲載されており、児童が学校教育の中で数多くの樹種名に触れていることを明らかにしたものがある(5)。し

かし、児童が認識している樹種数は11種程度であるが、回答樹種の多くは果樹であった(2)。

小・中・高生の遊びの時間を分析した報告では、小学生時代が最も屋外遊びやスポーツの時間が長いとされている(1)。つまり、子どもが外遊びやスポーツをする場所として、公園は重要な場所になると想定される。樹種名の認識には周囲の環境が影響するとの報告がある(2)ことから、都市部にある公園は樹木に触れあう機会を得られる貴重な場所である。将来にわたって森林・林業に興味・関心のある人を育成していくためには、身近である公園で森林環境教育を推進することは重要であると考えられる。東京都には林業試験場の跡地を公園とした「林試の森公園」があり、本研究はその公園に着目した。

そこで、本研究の目的は、林試の森公園で配布されて

いる樹木に関する資料等の分析と公園の散策コースの実態を明らかにすることにより、林試の森公園の樹木を活かした森林環境教育の可能性を検討することである。

## II 材料と方法

1. 調査地 対象地は、東京都目黒区と品川区にまたがる林試の森公園である。林試の森公園は都立公園であり、管理は指定管理者の公益財団法人東京都公園協会が行っている。

林試の森公園に関するホームページや公園に関する資料を参考に(7, 8), 林試の森公園の概要についてまとめると、1900年6月に当時の農商務省林野整理局の目黒試験苗圃として開設されたのが始まりである。その後、旧林野庁の林業試験場に名称を変更し、1978年まで使用されてきた。そして、筑波研究学園都市の建設に伴い、移転した跡地を整備し、目黒公園の暫定開放期間を経て、1989年6月に都立林試の森公園として開園した。その公園の現在の面積は約12haである。

林試の森公園内は、5つのゾーンに区分されており、多目的広場、遊具広場、樹林、水辺・親水、管理ヤードがある(7)。そのため、子どもから年配の方まで多くの方が利用できる施設となっており、年間100万人以上の利用者がいる(7)。

林試の森公園は、林業試験場の跡地であったことから約240種の樹木があり、他の公園ではみられないような珍しい樹木も見ることができる。中には天然記念物に指定されているものもある。

2. 調査項目 分析を行った資料は、林試の森公園サービスセンターで配布されている資料とホームページである。イベントスケジュールについては、過去4年分(2014年～2017年)を対象に分析を行った。樹木や森林教育に関係するイベントについては実際に参加して体験した。

「林試の森公園 ふれあいコース」の4種類の資料には、「珍しい樹木①日本産」、「珍しい樹木②外国産」、「身近な樹木③」、「虫が集まる樹木・くらしに役立つ樹木④」



図-1. 樹木の名札と解説板

Fig.1 Tree name tag and tree species commentary board.

があり、テーマに沿った散策コースが紹介されている。それらコースを実際に回り、樹木の名前や特徴を理解するのに欠かせない樹木の名札や解説板(図-1)について調査を行った。現地調査は2018年5月～6月に行った。

## III 結果

1. 林試の森公園のイベント この公園では月に約3～7件ほど定期的にイベントが行われていた。イベントの実施主体は、指定管理者や他の活動団体である(7)。今回、調査対象期間で行われていた年間の主なイベントを表-1に示す。指定管理者による主な催しには、「SL試乗会」、「鯉のぼり」、「七夕飾り」、「ドングリイベント」、「クリスマスイベント」がある。「林試の森フェスタ」は指定管理者が行っているものではなく、地域の催しとして開催されていた。また、公園を活用している団体に、「森のアトリエ」、「樹木散歩の会」、「樹木観察会」などがあつた(7)。

年間を通して最も多く行われていたイベントは、親子向けの工作などを行う「森のアトリエ」というイベントで、毎月3～4回行われている。このイベントは木の葉や松ぼっくりなどを扱うが、主に日本の伝統遊びについて学ぶことを目的としたものである。「野外体験教室 森の小さな植物画教室」もあり、実際に植物に触れて学ぶ

表-1. 林試の森公園の年間イベント

Table.1 Annual events held at Rinshi-no-mori park.

イベント名	開催日数	イベント内容
森のアトリエ	毎月3～4回	親子向けの工作など
樹木観察会	2ヶ月に1回	樹木を観察
樹木散歩の会	年2回	樹木を観察
野外体験教室 森の小さな植物画教室	年2回	観察しながら小さな植物画を描く
林試の森公園フェスタ	年2回	地域イベント
ミニSL試乗会	年2回	広場内をミニSLが周回
森の音楽会	年2回	ゲストを招いての音楽鑑賞会
森の中の鯉のぼり	年1回	近隣の児童が作った鯉のぼりの展示
林試の森の七夕飾り(作成期間)	年1回	短冊に願い事を書いて笹に結ぶ
林試の森の七夕飾り(展示期間)	年1回	8本の笹飾りの展示
林試の森公園冬のイベント野外体験教室 Kid's Outdoor School	年1回	かまどで料理体験、公園の樹を探検
野外体験教室「キッズツリークライミング」開催	年1回	ツリークライミング体験会
林試の森公園 夏休みクラフト教室	年1回	色々な紙飛行機を作って飛ばす
管理所内の夏みかんの無料配布	年1回	夏みかんの無料配布
園長と歩く珍しい樹木の観察会	年1回	樹木の観察会
森でマヨガ	年1回	健康増進のヨガ教室
林試の森公園ドングリイベント	年1回	ドングリラリー、ドングリ工作教室
☆みんなで作ろうクリスマスリース教室☆	年1回	クリスマスリースの作成

イベントではあるが、主に季節の花や野草などを観察しながら絵を描くイベントになっていた。その他には、季節の行事に合わせた催しであったり、音楽会や工作などが行われていた(表-1)。

**2. 樹木を学べるイベント** 森林環境教育を広義でとらえれば、森林、樹木、木材等に関するものであれば工作や芸術等も含まれる。しかし、本研究ではその公園の樹木を直接使用したイベントに着目した。その結果、林試の森公園で行われている樹木を学べるイベントには、「樹木観察会」、「樹木散歩の会」、「珍しい樹木の観察会」の3つがあることがわかった。この公園で行われる総イベント数50回〜60回程度のうち(表-1)、樹木に関するイベントは例年9回前後実施されていた(表-2)。

表-2. 林試の森公園の樹木に関するイベント数  
Table.2 Number of events on the trees held at Rinshi-nomori park.

	総イベント数	樹木に関するイベント数
2014年	60	10
2015年	26	5
2016年	47	9
2017年	63	9

注：2015年は園内工事のためイベント数が少ない。

2017年には、林試の森公園で行われているイベント63回のうち9回が樹木を学べるイベントであった(表-2)。その内訳をみると、「樹木観察会」は6回、「樹木散歩の会」が2回、「珍しい樹木の観察会」が1回であった。

樹木を学べるイベントの内容は、イベント名称が異なるものの、どれも同じような内容で行われていた。その具体的な内容としては、樹木について季節ごとに詳しく解説を受けたり、また樹木だけでなく草本についての解説を受け、実際に種や花卉を取って観察するものであった。休み無く解説を受けながら、園内を約2時間歩くイベントとなっていた。内容のレベルは、それなりに植物の知識のある人向けになっており、初心者や子どもを対象にしているものではなかった。参加者も常連が多い印象であった。

**3. ふれあいのコースの状況** 「林試の森公園 ふれあいコース」の4種類の資料には、テーマに沿って散策コースが紹介されている。「珍しい樹木①日本産」には、13種、「珍しい樹木②外国産」は15種、「身近な樹木③」は19種、「虫の集まる樹木・くらしに役立つ樹木④」は12種紹介されていた(表-3)。これら4種類の資料に掲載されている樹種に加え、「林試の森の樹木」と「林試の森の珍しい木」の資料を整理してみると、すべての資料か

ら128種の樹木が紹介されていた。このように公園で誰もが入手できる資料に樹木が紹介されている。

この4つのそれぞれのコースで指定されている樹木の名札や解説板の状況を確認した結果、樹木札のない樹木が各コースで1種〜6種あった(図-2)。樹木の説明のための解説板がない樹木についても1種〜7種見られた

表-3. 各コースで紹介されている樹種

Table.3 Tree species introduced in each course.

①日本産	②外国産	③身近	④虫・くらし
アカメヤナギ	アメリカガシワ	アオキ	アカガシ
イチイガシ	ウスバタイサンボク	アオギリ	アベマキ
カジカエデ	カイノキ	アメリカスズカケノキ	クスノキ
シマサルスベリ	コブカエデ	イイギリ	クスギ
タミンチク	シナユリノキ	イチヨウ	ゲッケイジュ
タラヨウ	センバシロコイア	カキ	ケヤキ
ツクバネガシ	ダイオウショウ	クロマツ	ツガ
ナナメノキ	チンタオトゲナシニセアカシア	ゴヨウマツ	トチュウ
ノグルミ	ヒマラヤゴヨウ	サンゴジュ	ノグルミ
ハナガガシ	ヒマラヤトウヒ	シラカンバ	ブナ
マルバチシヤノキ	フランスカイガンショウ	スズカケノキ	ホオノキ
ヨコグラノキ	ボダイジュ	ヒノキ	ヤマグル
リンボク	マケドニアマツ	ビワ	
	ユサン	マテバシイ	
	レバノンシーダー	ミズキ	
		メタセコイヤ	
		モチノキ	
		モミジバズカケノキ	
		ユリノキ	

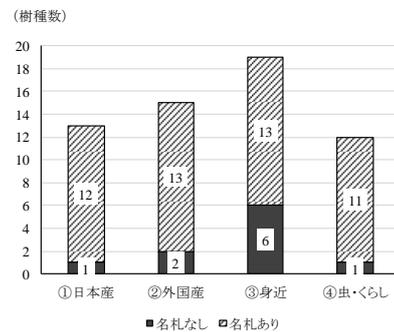


図-2. 各コースにおける名札の有無

Fig.2 Presence or absence of tree name tags in each course.

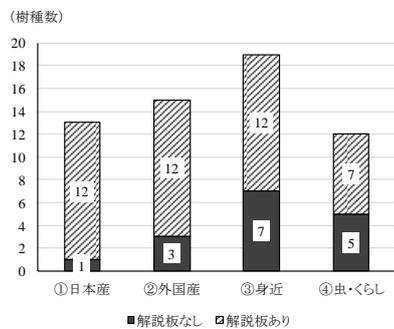


図-3. 各コースにおける解説板の有無

Fig.3 Presence or absence of tree species commentary boards in each course.

(図 - 3)。特に、「身近な樹木」のコースは、名札と解説板ともにないものが多かった。今回の調査から、すべてのコースで名札や解説板のない樹木が見られた。

また、資料に記載されている樹木の場所と実際に樹木のある場所の位置がずれていたため、樹木の場所を特定するのが難しい箇所もあった。なお、樹木を探しながら園内をまわるのに、各コースともに大人の歩行速度で約1時間～1時間30分程度を要した。

#### IV 考察

林試の森公園では樹木を学べるイベントが2ヶ月に1～2回開催されているが、その内容は子ども向けではなく、大人向けかつ大人向けの内容であった。子どもでも参加可能であるが、樹木に詳しくない子どもであればかなり難しく、理解できる内容ではない。参加者も常連が多い印象であったため、一人でも多くの人に樹木への興味や関心を持ってもらうには、子ども向けの内容や入門者向けの内容など、参加者が選択できるレベル別のイベント内容も設ける必要があろう。

林試の森公園は数多くの樹木があり、樹木を学ぶ良い機会となるため、現在行われている子ども向けや親子向けのイベントに樹木と触れ合う機会を設けるなどの検討も必要だろう。その一例として、現在、樹木を学ぶ森林環境教育プログラムの一つに「子ども樹木博士」があり、全国的に様々な団体や組織によって実施されている(6)。このプログラムは比較的容易で(6)、実施者側の負担は少ないと考えられるため、指定管理者の実施プログラムとして検討してもよいのではないだろうか。

林試の森公園の樹木について紹介されている6つの資料の樹種を見ると、全体で約130種と非常に多く、日本産から外国産まで幅広く、様々な森林環境教育プログラムの活用がある。しかし、それだけの樹木を1日で回って観察することはかなり難しい。サービスセンターで配布されている「ふれあいコース」の4種の資料で紹介されている樹種数は、平均15種であり散策時間も1時間から1時間30分と丁度良い時間と考える。

しかし、コースの実態を見ると、樹木の名札がなかったり、解説板がなかったり、コースの地図で示されている場所と位置が大きく異なっている樹木があり、見つけ難い樹木が多かった。そのため、特にこれらのコースで紹介されている樹木に関しては、樹木札の作成、解説板の設置、樹木の位置情報を正しいものにするなどの改善が求められよう。これらの改善に加え、この資料をより多くの人に活用してもらう工夫をすれば、解説者不要の森林環境教育としての可能性は高いだろう。

#### V おわりに

サービスセンターに掲示されていた2018年度の利用者アンケート(指定管理者実施)には、公園の植物の管理状況、施設の清掃状況、園内の情報・案内、催事・イベント等に関する満足度調査の結果が示されていた。その結果、多くの項目で約80%以上の満足度があった一方で、催事やイベントの充実度が52%と低かった。この公園には様々な樹種の樹木があり、都心では恵まれた環境にあるため、人の発達段階に合わせた樹木に関するイベントや施設を充実させることで、森林環境教育への関心の高まりに加え、利用者の満足度にも貢献すると考える。

**謝辞:** 本研究を進めるにあたり、資料提供と公園についてご教授いただいた林試の森公園サービスセンターの三村和子氏にお礼申し上げる。

#### 引用文献

- (1) 橋本尚美(2009) 誰がどのように遊んでいるのかー遊びとメディアの時間に着目してー. (第1回 放課後の生活時間調査 2008年, ベネッセ教育研究所編) 87-96. [https://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/houka-go/2009/hon/pdf/data\\_09.pdf](https://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/houka-go/2009/hon/pdf/data_09.pdf)(閲覧日 2019年11月5日)
- (2) 杉浦克明・原崎典子・吉岡拓如・井上公基(2014) 児童が思いつく樹種名とその理由 - 神奈川県藤沢市の小学校の事例 - . 日林誌 96 : 43-49
- (3) 杉浦克明(2015) 発達段階に応じた森林環境教育の実施の必要性. 日林誌 97 : 107-114
- (4) 杉浦克明・中島優樹(2015) 森林環境教育の場としてみた小学校内の樹木の現状 - 神奈川県藤沢市の小学校の事例 - . 関東森林研究 66 (1) : 9-12
- (5) 杉浦克明・吉田早織・早川尚吾(2018) 小学校教育課程における教科書に掲載されている樹種名. 日林誌 100 : 47-54
- (6) 杉浦克明・白濱真友(印刷中) 森林環境教育プログラム「子ども樹木博士」の全国的な実施傾向. 日林誌
- (7) 東京都建設局(2015) 林試の森公園マネジメントプラン - 林試の森公園の管理運営、整備等の取組方針 - . <http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/content/000021383.pdf>(閲覧日 2019年11月1日)
- (8) 東京都公園協会(2016) 都立林試の森公園. <http://www.tokyo-park.or.jp/park/format/view003.html>(閲覧日 2019年11月1日)
- (9) 山本清龍(2014) 森林環境教育に関する研究を特集した経緯. 日林誌 96 : 12-14